別紙１

**表　論点３　ゾーン・主要機能配置（事務局案）**

| | 第２回協議会の主な意見 | 計画書への反映 |
|---|---|---|
| NO.1 | ・前回の協議会を踏まえて、整備方針1-3に自然環境の保全・継承に、「創出」も追加したことは、ネイチャーポジティブを実現する観点からとても良い。 | －<br>（賛成意見） |
| NO.2 | ・前回の協議会を踏まえて、整備方針1-3に自然環境の保全・継承に、「創出」も追加したことは、ネイチャーポジティブを実現する観点からとても良い。<br>・「荒川河川敷の保全と利用のあり方」により、荒川大橋下流左岸の「荒川緑地」の中で8割が利用、2割が自然としなければいけないが、現在、2割の自然が確保できているかが疑問の状況である。事務局案の自然環境保全ゾーンに加え、スポーツ健康文化交流ゾーン内にも自然環境保全・環境学習ゾーンを一部重ね、自然環境を「創出」する計画としてほしい。追加する場所は、現況坂路の下流の荒川緑地エリア内が良いと考える。 | ・取組内容については検討の上、生態系保護協会を含めてかわまちづくり計画とは別で調整させていただくこととする。 |
| | 先程述べた「荒川緑地」内の自然環境の創出も計画に位置付けてほしい。カワラナデシコやオミナエシ等の絶滅に瀕した熊谷の在来植物や昆虫が見られる草地環境を、「創出」してほしい。 | |
| NO.3 | 計画対象エリア内のコアエリアを下流の「元荒川の源流ムサシトミヨ保護センター付近まで」を含む範囲に広げ、市民が学習できる場として一体的に上手く活用できると良い。 | ・ご意見を踏まえ、計画対象エリアのコアエリアの範囲について、「ムサシトミヨ保護センター付近まで」のエリアを拡大した。 |
| | ・ムサシトミヨ(元荒川源流)まで範囲を広げることは、賛成である。 | |
| NO.4 | ・将来構想エリアに久下橋周辺まで含む計画となっている。周辺には幻の村　新川村があり、ワンデーキャンプが実施されており、将来構想には新川村を含む範囲となると良い。 | ・ご意見を踏まえ、将来構想については、今後継続して検討していく。 |
| NO.5 | ・荒川大橋の上流側は、ワンドが形成され、生き物と触れ合える場所として良い場所だと思う。 | －<br>（賛成意見） |
| NO.6 | ・スポーツ健康文化交流ゾーン設定についてもう少しふくらませ、体育館を含むエリアとすると良い。 | ・ご意見を踏まえ、スポーツ健康文化交流ゾーンについて、体育館を含むエリアとした。 |
| NO.7 | ・計画エリア周辺には、体育館だけでなく、図書館や文化センターが立地している。ピンク破線のアクセス軸が示す、駅から図書館、体育館、土堤（かわ）までのアクセスの充実を考慮すると良いのではないか。 | ・ご指摘の通り、駅から川までのアクセス動線の充実（安全、賑わい）はとても重要と考えている。<br>・取組内容に「「駅」と「かわ」と「まち」の移動を安全、快適に楽しむアクセス環境の整備」、その今後の課題・留意点に「人中心のウォーカブルな交通環境の充実」を挙げ、次年度以降の継続調整事項とした。 |

**表　論点4　活動の展開(ハード・ソフト施策)（事務局案）**

| | 第２回協議会の主な意見 | 計画書への反映 |
|---|---|---|
| NO.1 | ・堤防天端をウォーキングしている人が多いため、利用者向けに距離標などの案内板が整備されると良い。 | ・ご意見を踏まえ、情報発信施設（案内誘導サイン）として、整備メニューに反映した。 |
| NO.2 | ・荒川緑地再整備は駐車場までとなっているが、駐車場下流のエリアについては、空地となっているので、そこをターゲットとして、自然創出とすると良いのではないか。 | ・取組内容については検討の上、生態系保護協会を含めてかわまちづくり計画とは別で調整させていただくこととする。 |
| NO.3 | ・スポーツ健康文化交流ゾーンでは、スポーツが整備内容としてあがっているが、学校でテント（キャンプ）泊を実施している。BBQも整備内容に上がっているとのことなので、アウトドア系の民間サービスを誘致すると良いのではないか。 | ・ご意見を踏まえ、下記のソフト施策メニューに反映した。<br>・公園機能を充実する民間事業者の占用の誘致を検討する（民間事業者による占用・有料サービス提供・管理の体制、ルールづくり（イベント施設配置、バーベキュー等利用） |
| NO.4 | ・釣りやSUPのメニューは魅力があるが、学校では水難事故の懸念から、子供たちだけで水辺に近づかない様に指導している。どうすれば安全に川で遊べるようになるのか考える必要があるのではないか。<br>・河川の澪筋が護岸に寄っている場所で、水の流れが速く水深が深いことから水辺利用のスペースの確保が難しいことから、どのように安全性を確保しながら空間を確保することが今後の検討課題ではある。 | ・ご意見を踏まえ、水辺の憩いゾーンにおける安全な水辺利用に留意し、親水護岸（比較的流れが穏やかな分流水路位置、階段式護岸構造）、捨て石設置（流速を抑制＋澪筋を川道中央に誘導効果を見込む）を整備する計画とした。 |
| NO.5 | ・幼児（保育所）が遊びに来ていたりする。安全に遊べる空間整備が望ましい。 | 今年度（R6年度）実施した熊谷市荒川かわまちづくり社会実験（荒川自然観察会R6.10.26実施）において、河川管理者および桜木小学校の協力のもと、小学生児童及び保護者を対象に、自然観察会と合わせて「楽しみながら学ぶ川の安全教室」を実施した。<br>本社会実験の取組を踏まえ、重要性を鑑み、本計画のソフト施策に反映した。<br>川の安全教室の取組について、次年度以降も引き続き協議会、河川管理者により詳細を協議し、継続的な活動として取組予定。 |
| NO.6 | ・自然環境学習ゾーンについて、水辺の生き物調査など、小学校での学習を深められる場、どんな学習ができるか広報できる場となると良い。 | 同社会実験（荒川自然観察会R6.10.26実施）において、河川管理者および桜木小学校の協力のもと、小学生児童及び保護者を対象に、荒川自然観察会を実施た。社会実験の取組を踏まえ、重要性を鑑み、本かわまちづくり計画のソフト施策に反映した。<br>荒川自然観察会について次年度以降も引き続き協議会、河川管理者により詳細を協議し、継続的な活動として取組予定。 |
| NO.7 | ・安全に関し、治安面も含め検討してほしい。例えば、河川敷地や堤防上に、夜間の治安確保のための照明を整備することは可能か。 | ・ご意見を踏まえ、堤防道路上の整備メニューに街灯整備を反映した。 |

**表　社会実験**

| | 第２回協議会の主な意見 | 計画書への反映 |
|---|---|---|
| NO.1 | ・社会実験では、バリアフリー対策に加え、障害を持った方が来たいと思えるメニュー、楽しむことのできるメニューがあると良い。 | ・同社会実験では、自由広場内に誰もが自由にスポーツや健康づくりを楽しむ空間づくりにチャレンジし、効果や課題を確認した（インクルーシブな遊び場、広場内出入り口の段差解消、休憩コーナー）。 |
| NO.2 | ・社会実験企画案のメニューは、概ね賛同が得られると考える。社会実験の試行で地域意見を確認するという目的から、メニューには、地域意見が分かれるようなメニューもあると良いと考える。<br>・頂いたご意見は、いずれも社会実験実施にあたり重要な視点である。事企画案に考慮してはいかがか。 | ・今年度は、音楽イベントやバーベキューイベント等、関係者合意に特に課題のある内容は、準備期間不足により実施ができなかった。第３回ワークショップによる意見（市民・行政協働でのかわまち活動（案））を踏まえ、次年度以降の検討項目として継続的に取り組む予定。 |

別紙３

# 表4.1 論点４ 活動の展開に関する意見まとめ（スポーツ健康文化交流ゾーン）

計画書に載せる情報

※完成形堤防での整備を想定

| 役割 | 取組内容（案） | 場所 | 必要な施策<br>（凡例）赤青：ハード施策　ピンク：ソフト施策<br>黒：今後の課題、留意点など | かわまちづくり計画に記載する項目 | 意見 | 意見概要<br>（凡例）■：関係者ヒアリング・協議会　■：ワークショップ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1.地域の安全安心に寄与する（洪水・台風） | (1)堤防整備 | 堤防 | 1）堤防整備（完成形堤防に嵩上げ、拡幅） | ハード施策（案） | WS① | ・土手の整備 |
| | | | ①周辺住宅や桜並木への影響を軽減する堤防拡幅（盛土）の検討<br>（堤外地側）（川側）への盛土を基本として、国（河川管理者）と調整を図る） | 次年度以降調整 | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ▲堤内地側の盛土整備による道路への影響や法崩れによる住宅への影響が心配 |
| | | | | | WS① | ▲土手に盛土しないでほしい[〔・暗くなる、桜が切られちゃう、土が流れてきたら危険〕 |
| | | | ②堤防拡幅（盛土）工事による既設堤防の在来野草への影響と保全対策の検討 | 次年度以降調整 | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ▲堤防拡幅時には既設堤の在来野草を盛土表面に移植する等、環境に配慮が必要 |
| | | | | 現案は、土手と公園の一体化（公園の嵩上げ）を計画していない。 | WS① | ▲土手と公園一体化危険 |
| | | | | 堤防拡幅は堤外地側に拡幅する計画である。頂いたご意見を踏まえ河川管理者と調整する。 | WS③ | ・堤防拡幅が堤外地側に広げられない時は中止にしてほしい |
| 2.地域防災力を高める地域活動を支援する空間 | (1)地域の防災活動を行うための環境整備 | 自由広場等 | 1）救急活動・防災活用に必要なオープンスペースの確保（救急ヘリポート、災害時の避難スペース、災害瓦礫置き場、大雪時の雪置き場等） | ハード施策（案） | 協① | ・荒川の水害に関する対策について、川辺のみでなく、避難施設も含めて検討してほしい。 |
| | | | | | WS① | ・災害時のオープンスペース機能の確保・防災拠点としての機能も重要 |
| | | ③④ 堤防坂路※ | 2）堤防坂路の整備<br>（緊急車両用のアクセス坂路、避難者用バリアフリースロープの整備） | ハード施策（案） | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・防災イベントについて、市民体育館＋荒川緑地での開催は可能だが、荒川緑地に行くために土手を超える必要があり、ベビーカーの方の移動の負担が心配。 |
| | | ⑦ 堤内地 | 3）新市民体育館との防災拠点連携<br>（防災倉庫等） | ハード施策（案）<br>※新市民体育館との連携事項 | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・荒川公園、体育館（建て替え）と荒川緑地の防災拠点連携の視点は重要 |
| | (2)地域の防災訓練・防災教育活動支援 | ⑪ 自由広場等 | 1）情報発信施設（防災情報案内看板等の設置）<br>（災害リスク、過去の洪水、治水の歴史、流域治水等）<br>A)地域の防災活動の充実（防災訓練、防災学習イベント実施支援）<br>①地域の防災活動の充実（実施体制、実施メニューの具体化） | 次年度以降調整 | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・市民体育館＋荒川公園で防災イベントを実施できると良い。 |
| 3-1.荒川の自然・風景を楽しながら気軽に健康づくりやスポーツを楽しむ空間（散歩、ランニング、サイクリング、地域スポーツ）<br>3-2.スポーツ観戦やイベント開催による地域交流・賑わいの空間<br>3-3.市内外の多様な人との出会いと交流を育む憩いの空間 | (1)堤防道路の利用を充実する環境整備 | ② ⑪ 堤防※ | 1)堤防道路の休憩施設の整備<br>(堤防の側帯を活用したベンチ・あずまや又は緑陰、サイクルラック）<br>2)情報発信施設（案内・誘導サインの整備） | ハード施策（案） | WS② | ・360℃熊谷の景色が楽しめる |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・案内看板などに東京までの距離を記載する等、工夫があると良い。 |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・熊谷市は自転車が乗り易い平坦地で、荒川の上下流の隣接市と連携を図る上で自転車は有効な要素と考える。 |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・散歩コースとしてとても魅力があるコースであり、その魅力を知ってもらい、利用してもらいたい。 |
| | | | | | WS① | ・河川敷エリア全般的に避暑地的な休けい場所とユニバーサルデザイン的なトイレを増やす |
| | | | | | WS③ | ・堤防の上にキレイなトイレをつくってほしい |
| | | | ①堤防道路利用の暑さ対策の検討<br>（遮熱性舗装材の選定等。堤体管理、一般般利用者の通行、自然景観との調和、夏場の暑さ対策の環境配慮に留意する） | 次年度以降調整 | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・堤防道路を遮熱性舗装にしてほしい。 |
| | | | ②堤防道路の暑さ対策の検討（緑陰の充実等）<br>交通や河川管理の支障とならないよう留意する。 | 次年度以降調整 | WS② | ・「四阿」よりも「大きな木」をうえて10年後、50年後も良かったと思える開発を願う<br>・「四阿」よりも「大きな木」を！10年後も美しく |
| | | | | | WS③ | ▲桜の季節、花火大会時、四阿とかは交通の妨げになると思う。 |
| | | | | | WS③ | ▲土手上に小広場を作ると人や車の流れが複雑になる。キッチンカーを止めるなら広い土手の下が良いと思う。 |
| | | | ③荒川沿いの自転車ネットワークの充実（国道横断部など） | 次年度以降調整 | WS② | ▲自転車道が通り抜けられない（国道407号によるネットワークの分断） |
| | | | ④情報発信施設の維持管理体制、方法の検討 | 次年度以降調整 | WS③ | ▲（情報発信施設）作るのはいいが維持管理して |
| | | | ⑤情報発信の方法・内容の検討（PR活動） | 次年度以降調整 | WS③ | ・来場者との交流のための「しかけ」があると良い。 |
| | | | | | WS③ | ・市のイベント(うちわまつり)等の情報共有が必要である。 |
| | | | | | WS③ | ・情報共有の工夫、リピーターの期待できる工夫 |
| | | | | | WS③ | ・投稿、情報共有できる様な案内 |
| | | | ⑥落雷時の避難場所の検討<br>（あずまやに避雷針の設置等） | 次年度以降調整 | WS③ | ・東屋又は屋根付建屋は落雷時の避難場所として避雷針設備を設けては？ |
| | | | | 雨水の堤体への浸透抑制、河川巡視や住民の散策路やサイクリングロード利用の安全確保の観点から、当該区間では堤防天端の舗装は必要と考えます。 | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・天端の舗装は生物の移動の妨げになるため、野鳥の森区間では舗装を実施しない様に要望している。 |
| | | | B）堤防散策の魅力づくりの活動充実<br>（四季を通じた魅力、見どころ）<br>①熊谷らしさの魅力の充実と発信（桜の開花時期（春）以外の季節の魅力）<br>②魅力ある休憩拠点の運営事業者の誘致（新市民体育館連携）<br>③まちとの連携、まちへ誘う仕掛けづくり | 次年度以降調整 | WS② | ・堤防に花をいっぱいにする。桜以外の時期にも！ |
| | | | C）公園機能を充実する民間事業者の占用の誘致<br>①魅力ある休憩拠点運営事業者の誘致、占用・有料サービス提供・管理体制のルールづくり | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ▲サイクリングやスポーツ利用の人をまちに呼び込むことはとても難しい。 |
| | | | | | WS① | ・立正大学との連携。まちなか |

# 表4.1 論点４ 活動の展開に関する意見まとめ（スポーツ健康文化交流ゾーン）

計画書に載せる情報

※完成形堤防での整備を想定

| 役割 | 取組内容（案） | 場所 | 必要な施策<br>（凡例）赤青：ハード施策　ピンク：ソフト施策<br>黒：今後の課題、留意点など | かわまちづくり計画に記載する項目 | 意見 | 意見概要<br>（凡例）■：関係者ヒアリング・協議会　■：ワークショップ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3-1.荒川の自然・風景を楽しながら気軽に健康づくりやスポーツを楽しむ空間（散歩、ランニング、サイクリング、地域スポーツ）<br><br>3-2.スポーツ観戦やイベント開催による地域交流・賑わいの空間<br><br>3-3.市内外の多様な人との出会いと交流を育む憩いの空間 | (1)堤防道路の利用を充実する環境整備 | 堤防※ | ③ 3)堤防坂路の整備（バリアフリースロープの整備）（再掲） | ハード施策（案） | WS① | ・高齢者や障害のある方も気軽に利用できる環境への配慮 |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・高齢者の方々が安心して歩ける道路、階段（手すり付き）、スロープを設置してほしい。 |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・バリアフリーに対応したスロープがあると車椅子でアクセスがしやすくなる。 |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・現状の河川敷内への坂路は遠く、坂路の勾配が急で、車椅子では移動が困難。 |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・スロープは、目的地に遠回りとならないような位置に配置が必要（高齢者利用、車椅子利用、ベビーカー利用等） |
| | | | | | WS③ | ・堤内への出入りが明確化される |
| | | | ①手摺、踊り場など、必要な安全対策の検討（追加 | 次年度以降調整 | WS③ | ▲バリアフリーの坂路は距離が長い〔人力移動大変では？下りが危険では？〕 |
| | | | | | WS③ | ・バリアフリースロープを設けるには堤防側道路等には舗装工事が必要なのではないか |
| | | | | 河川敷地内は洪水時の浸水リスクがあり、のエスカレータの整備は困難です。新市民体育館内のエレベータ施設を利用し、堤防上でアクセスできるよう、今後体育館整備と連携調整します。 | WS① | ・エスカレーターのような設備を作ってほしい |
| | | | ① 4）堤防道路の拡幅、歩行者と自転車の通行分離表示（交通安全対策） | ハード施策（案） | WS① | ・サイクリングロードの整備（車用・分離）[自転車専用道路の整備（安心、安全）] |
| | | | | | WS③ | ・分離はありがたい |
| | | | | | WS③ | ・完成提の天端舗装 |
| | | | ①堤防道路の除草作業等の維持管理 | 次年度以降調整 | WS③ | ▲雑草整備 |
| | | | D)交通安全、防犯対策自転車の交通ルール・マナー周知活動や交通安全活動充実<br>①自転車の交通ルール・マナーの周知活動や交通安全活動の充実<br>②交通安全活動の実施体制、実施メニューの具体化<br>③歩行者等の安全確保のためのバイク利用制限の検討（追加） | ソフト施策（案） | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・堤防上の道路の自転車（スポーツバイク）と歩行者の通行空間の分離等の歩行者の安全対策が必要。 |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ▲サイクリングロードなどの自転車利用環境等を検討するにあたっては歩行者との安全対策に留意する必要がある。 |
| | | | | | WS③ | ・自転車のまちをPRする為に定期的に正しい乗り方教室を開催する |
| | | | | | WS③ | ▲バイクが走っているので危険 |
| | | | ⑤ 5)堤防道路の街灯整備（防犯対策） | ハード施策（案） | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・ランニングコース（堤防道路、高水敷）に街灯等の夜間利用の防犯対策が必要 |
| | | | | | 協② | ・安全に関し、治安面も含め検討してほしい。例えば、河川敷地や堤防上に、夜間の治安確保のための照明を整備することは可能か。 |
| | | | ①街灯の整備範囲 | 次年度以降調整 | WS③ | [・暗くなれば河川敷は使わない。図示された範囲だけ街灯があっても、その上下流側は暗いままなので意味がない] |
| | (2)花火大会や桜祭りの大規模イベント利用を充実する環境整備 | 堤防※ | ⑥ 1）階段式護岸の整備（観覧席用） | ハード施策（案） | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・階段式護岸はスポーツ観戦できて良い |
| | | | | | WS① | ・ラグビーを観覧する場所がほしい |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ▲階段式護岸は完成堤防での整備が必要 |
| | | | | | WS③ | ラグビー需要高まれば将来必要かも |
| | | | ①イベント時の階段部の雑踏事故防止のためのハード・ソフト施策の検討<br>（ハード施策：まち側の階段拡幅）<br>（ソフト施策：動線計画、交通誘導、安全管理） | 次年度以降調整 | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・階段式護岸になると花火が見やすくなり良い。川側だけでなくまち側にも階段を設けないと事故の危険等が懸念される。 |
| | | | | | 協① | ・活動ごとの動線を整理したい。今、歩行、自転車、車両の動線が重なり危険な状態。 |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・イベント時の雑踏事故防止に配慮した動線計画、堤防道路や階段の拡幅整備が必要 |
| | | | ②階段式護岸の最適配置・規模・構造の検討<br>（河川空間利用の充実と自然環境保全、夏場の暑さ対策の両立に留意する） | 次年度以降調整 | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ▲現状の土堤をコンクリート製の階段護岸等の整備を実施する場合は、地域の環境団体等への説明及び代替措置の検討が必要 |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・現在の自然を残した整備にしてほしい。 |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ▲環境保全上は、階段護岸は避け、草地が望ましい。 |
| | | | | | WS② | ▲階段式護岸で緑の土手をコンクリにしないで。（花火や桜は短期間だけ） |
| | | | | | WS③ | ▲土手の斜面を草から階段式護岸にすると飲食のごみの放置や汚れが多くなると思う。コンクリートより植物の緑が好き。 |
| | | | | | WS③ | ▲日常的には不要では？ |
| | | | | | WS③ | ▲全部するのは良くない |
| | | | | | WS③ | ▲部分的にするのがいい |
| | | | | | WS③ | ▲もっと緑が必要 |
| | | | | | WS③ | ▲日陰がない。たえられない。 |
| | | | | | WS③ | ・有料ラグビー場なら階段式護岸の必要性はあるが自由広場にはいらないと思う |
| | | | | | WS③ | ・せっかく作る観覧兼用の護岸階段がラグビー場の見学者には半分しか利用できない |
| | | | ⑦ 2）新市民体育館と堤防を繋ぐ連絡通路の整備<br><br>3)新市民体育館との休憩拠点連携（新市民体育館との連携メニュー、休憩、情報発信、管理棟機能） | ハード施策（案）<br>※新市民体育館との連携事項 | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・堤防を拡幅して体育館とつながると良い |
| | | | | | WS② | ▲新体育館のデザインにもよりますが、体育館からのアプローチデッキから荒川土手へ降りられると至便では？ |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・堤防上または新体育館に体が不自由な人に配慮した観覧席やVIP用の観覧席が整備されると良い |

# 表4.1 論点４ 活動の展開に関する意見まとめ（スポーツ健康文化交流ゾーン）

計画書に載せる情報

※完成形堤防での整備を想定

| 役割 | 取組内容（案） | 場所 | 必要な施策<br>（凡例）赤青：ハード施策　ピンク：ソフト施策<br>黒：今後の課題、留意点など | かわまちづくり計画に記載する項目 | 意見 | 意見概要<br>（凡例）■：関係者ヒアリング・協議会　■：ワークショップ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3-1.荒川の自然・風景を楽しみながら気軽に健康づくりやスポーツを楽しむ空間（散歩、ランニング、サイクリング、地域スポーツ）<br><br>3-2.スポーツ観戦やイベント開催による地域交流・賑わいの空間<br><br>3-3.市内外の多様な人との出会いと交流を育む憩いの空間 | (2)花火大会や桜祭りの大規模イベント利用を充実する環境整備 | 堤防※ | | ハード施策（案）<br>※新市民体育館との連携事項 | WS① | ・河川敷エリア全般的に避暑地的な休けい場所とユニバーサルデザイン的なトイレを増やす（再掲） |
| | | | ①新市民体育館内施設との連携に向けた計画調整の必要性<br>※新市民体育館内のユニバーサルデザイン対応施設の共有（休憩施設（カフェ・トイレや観覧席）、エレベーター、ロッカー等） | ハード施策（案）<br>※新市民体育館との連携事項 | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・土手に安全できれいなトイレのある飲食店が整備されると良い |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・遠方から人が集まる休憩拠点の充実が重要（かわまちや熊谷の地域の魅力の情報発信のメリットがある） |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・サイクリストの休憩拠点の整備が必要（荒川サイクリングロード、秩父鉄道サイクルトレインとの連携） |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・まちおこしを目指し、人が集まる場所にするためには、若者が気軽に立ち寄れる場所や、行きたいなと思うランドマークなどがあると良い（荒川を望むオープンカフェ等） |
| | | | | | WS③ | ・体育館から上がれたら③はいらないのでは　※③堤防坂路(バリアフリースロープ)＋階段 |
| | | | ②連絡通路の位置検討 | ハード施策（案）<br>※新市民体育館との連携事項 | WS③ | ・駅からまっすぐな道にあるべき |
| | | | ③桜堤の景観への影響軽減 | ハード施策（案）<br>※新市民体育館との連携事項 | WS③ | ▲体育館↔土手の連絡路は下がトンネル状で暗くなり桜の一列一体感がとぎれる |
| | (3)水辺、山並みの風景、桜堤の景観の魅力の充実と、その保全と継承 | ⑯<br>堤防※ | 1）熊谷桜堤の保全対策<br>（工事影響の最小化） | ハード施策（案）<br>※新市民体育館との連携事項 | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・熊谷桜堤は桜百選に指定されており、最新技術を駆使し必ず残してほしい。 |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ▲堤防天端に施設を設ける等した場合、桜堤の景観が損なわれるため、桜堤に影響するような整備は反対である。 |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ▲桜並木の保全と堤防拡幅や階段敷護岸の工事の両立を考える必要がある。 |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・菜の花がコロナ禍で斜面に広がり、花見をする場所を確保しづらい状況となっているため、場所を確保できるようにしてほしい。 |
| | | | ①かわまちづくり工事による桜堤への影響を最小化する措置の検討（構造、施工方法、代替措置、桜の更新計画と連携） | 次年度以降調整 | WS① | ▲桜並木をこわさないでほしい |
| | | | | | WS① | ▲カフェなど作って桜を切らない |
| | (4)高水敷の利用を充実する環境整備 | ⑧<br>自由広場<br>グランド等 | 1)河川敷地内の休憩施設<br>（ベンチ、移動式トイレ、緑陰など）<br><br>①河川敷地内の木陰の充実 | ハード施策（案） | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・河川敷地内の高木の木陰を活かした涼める場所を作ったらどうか。 |
| | | | | | 協① | ・暑さについての対策は必要。夏場は20分もいられないです |
| | | | | | 協① | ・暑い街熊谷、日影を作るための植栽は可能か。休憩用のベンチの設置は可能か？ |
| | | | | | WS① | ・全体的に日影が増えて過ごしやすくなって欲しいです。 |
| | | | | | WS① | ・河川敷エリア全般的に避暑地的な休けい場所とユニバーサルデザイン的なトイレを増やす（再掲） |
| | | | | | WS① | ・大木の日照を活かした整備（上流側）〔・犬の散歩やスポーツ利用者の保護者が利用〕（再掲） |
| | | | | | WS② | ・トイレの整備 |
| | | | | | WS② | ・トイレの数を増やしたいです。 |
| | | | | | WS③ | ・ベンチ・トイレ・木陰はもっとあって良い(四阿はあまり多くはいらない) |
| | | | | | WS③ | ・ベンチは高齢者にはやさしい事で大変よい事だと思います |
| | | | | | WS③ | ・もっとキレイなトイレにしてほしい |
| | | | | | WS③ | ・キレイなトイレの数もっとほしい |
| | | | | | WS③ | ・移動式トイレじゃなくていい |
| | | | | 国（荒川上流河川事務所と協定に基づき対応中） | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・台風襲来時の四阿・柵・トイレの移動の対応方法、体制を決める必要がある |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ▲出水後の河川敷の流木撤去等の復旧の体制の検討が必要 |
| | | | ②河川敷地内の歩行者の主動線のバリアフリー対応の検討（堤内地（まち側）⇔堤防道路⇔広場⇔トイレ、休憩施設、河川敷地駐車場、水辺）（最短経路、バリアフリースロープ、施設のバリアフリー対応）<br>③イベント実施のための指導者の育成の検討 | 次年度以降調整 | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・体の不自由な人等がボッチャなどのスポーツができる環境づくり、指導者の育成が必要 |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・体が不自由な方や高齢者のアクセス利便の向上、楽しむ施設の充実が必要 |
| | | | | | 協① | ・河川敷までの動線も土手を下った所もデコボコ段差があったり、駐車場も大きな穴だらけだったので車いす、ベビーカー、足の不自由な人が使いにくいので出来ることから改善してほしい。 |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・堤防から水辺までの連続したアクセスしやすさを考える必要がある。 |
| | | | | | WS② | ▲バリアフリーのスロープにするのであれば、降りた先も、障害者の方でも利用しやすくしてほしい |
| | | | | | 協① | ・河川敷にある車いすトイレは（他の地域）防犯の観点からカギがかかっている事が多いので、何か対策を。 |
| | | | ④イベント利用など多様な利用に配慮したインフラ整備の検討<br>⑤新市民体育館施設との連携の検討 | 次年度以降調整 | WS② | ・土手の下に水道があると良い |
| | | | | | WS② | ・着がえできるスペースがあるといい |
| | | ⑨ | 2）駐車場整備（必要な駐車・駐輪機能の充実） | ハード施策（案） | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・河川敷地の駐車場の駐車容量の拡充 |
| | | | | | WS① | ・駐車台数。駐車場への登板道の改善が必要〔・体育館の駐車場は狭く、バスが駐車するとさらに駐車出来る台数が減る〕 |
| | | | | | WS② | ・A.B.C案共通　駐車場は土手の近く |
| | | | | | WS③ | ・駐車場の混雑時に整理して駐車できるようにすると良い。 |
| | | | | | WS③ | ・街灯があると良い |
| | | | | | WS③ | ・他に場所ないからここで仕方ない |
| | | | ①駐車場規模・配置の最適化の検討（バス利用を考慮） | 次年度以降調整 | 協① | ・駐車場の規模・位置 |
| | | | ②徒歩・自転車（シェアサイクル等）・公共交通アクセスの充実と連動した駐車需要マネジメント | 次年度以降調整 | WS① | ・駐車場整備〔・駐車場を河川敷に設置（体育館）、駐車場がないと多くの人が集まれない〔・レンタサイクルでアクセスする方法もある〕・管理を柔軟に運用できないと、せっかくの駐車場施設もうまく機能しない。〕 |
| | | | | | WS① | ・バス停 |
| | | | | | WS② | ・交通手段としてのシェアサイクルの活用はどうか？ |

# 表4.1 論点４ 活動の展開に関する意見まとめ（スポーツ健康文化交流ゾーン）

計画書に載せる情報

※完成形堤防での整備を想定

| 役割 | 取組内容（案） | 場所 | 必要な施策<br>（凡例）赤青：ハード施策　ピンク：ソフト施策<br>黒：今後の課題、留意点など | かわまちづくり計画に記載する項目 | 意見 | 意見概要<br>（凡例）■：関係者ヒアリング・協議会　■：ワークショップ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3-1.荒川の自然・風景を楽しながら気軽に健康づくりやスポーツを楽しむ空間（散歩、ランニング、サイクリング、地域スポーツ）<br><br>3-2.スポーツ観戦やイベント開催による地域交流・賑わいの空間<br><br>3-3.市内外の多様な人との出会いと交流を育む憩いの空間 | (4)高水敷の利用を充実する環境整備 | 自由広場<br>グランド等 | ③安全な利用、多様なニーズに対応する駐車場の運用方法の最適化の検討（日常時・イベント時） | 次年度以降調整 | WS① | ・駐車場のルール化〔駐車場のアクセス（一方通行・ルール、駐車場一方通行→スピードを出す人が増えて危険→段を設ける、イベント時やスポーツ利用時の駐車場有料化） |
| | | | | | WS② | ・駐車場の利用時間をフリーにしてほしい |
| | | | | | WS② | ▲キャンピングカー大型車の侵入制限はあるのか？ |
| | | | | | WS② | ・駐車場が一箇所でない方が良い。今現在土日はラグビー場のまわりに駐車しているので。 |
| | | | | | WS② | ▲坂路・駐車場1ヶ所では難しい |
| | | | ④周辺まちづくり（土地利用・歩行者動線・新市民体育館整備）と連携の検討 | 次年度以降調整 | WS② | ▲体育館の規模拡大すると駐車台数も増やさないとパンクする！ |
| | | | ⑤イベント時の体育館前道路の路上駐車対策の検討 | 次年度以降調整 | WS① | ・駐車場確保のための道路拡大〔体育館前の道路は土日に路駐が多い〕 |
| | | | ⑥駐車場の追加整備の検討（見晴公園坂路側、各広場周辺） | 次年度以降調整 | WS② | ▲坂路は上・下流一ヵ所ずつ。駐車場も同様。駐車場の場所から使用施設が遠い場合利用しない。 |
| | | | | | WS② | ・駐車場は、体育館用と川遊び用で分ける |
| | | | | | WS② | ・見晴公園出入口を考えた駐車場を作る |
| | | | | | WS③ | ▲上流の方にも駐車場必要 |
| | | | | | WS③ | ・駐車場を各イベント場に作る(30～50台) |
| | | | | | WS③ | ・駐車場の分散が必要 |
| | | | ⑦駐車場機能の充実と環境配慮の両立の検討（夏場の暑さが増すことや自然環境への影響の懸念事項への対応） | 次年度以降調整 | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ▲駐車場整備による夏場の暑さが増すことへの懸念 |
| | | | | | WS① | ▲簡単に車が入れると環境破壊につながる恐れがある。 |
| | | | | | WS③ | ▲駐車場の舗装アスファルト以外でも透水性舗装を採用してほしい。 |
| | | | | | WS③ | ▲舗装が草・土だと雨の日にぬれる |
| | | ④ | 3）堤防坂路の整備（自転車・車両用）<br>（交通安全対策（拡幅・線形改良）（再掲）） | ハード施策（案） | WS① | ▲桜木小のとこの坂路はV字型をI字型に改めるべき〔・V字の坂路が大変〕 |
| | | | | | WS① | ・駐車場のアクセス（道路）を広げる片側1車で直線で通れる(駐車場も整備) |
| | | | | | WS② | ・A.B.C案共通　新体育館と駐車場の間直線にして欲しい |
| | | | | | WS① | ・坂路の拡張〔・駐車場を整備する上でも坂路を拡張しない、・バスが交互通行ができない。改善しないともったいない。〕<br>〔・河川敷駐車場は雨の日に利用すると泥だらけになる〕 |
| | | | | | WS② | ▲坂路だけ広く考えてもらえれば良い |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・自転車が安全に利用できる緩勾配の坂路があると良い |
| | | | | | WS② | ラグビー場には平日高校生が自転車利用している。階段だけでなく自転車道も作って上げたい。 |
| | | | | | WS③ | ・スムーズに通行できるように道路整備は必要 |
| | | | | | WS③ | ・大型車両が坂路利用できる整備としてほしい。 |
| | | | | | WS③ | ・防犯カメラも併設すると良い。 |
| | | | | | WS③ | ・堤防側に車両が入り易い構造(坂路？道路)が充実しない事には堤防側の施設利用が増えることはないと思われる |
| | | | | | WS③ | ・広場の入り口を何か所か作る |
| | | | ①桜木小学校前坂路と別ルートの坂路の検討（見晴公園側坂路の改良、万平公園側坂路の追加整備、荒川大橋から河川敷への坂路の追加整備） | 次年度以降調整 | WS② | ・堤防坂路の改良→見晴公園脇もやって欲しいです。 |
| | | | | | WS② | ・土手を超える道はここだけではない。上流・下流の道は整備できないか？ |
| | | | | | WS② | ▲新体育館のデザインにより土手沿い一方通行路がどのように変更になるかが重要であるが河川敷への車侵入路（坂道）は2ヶ所（上流・下流）必要 |
| | | | | | WS② | ・万平公園の歩道橋のある道から土手に上げる坂路をつくる |
| | | | | | WS② | ・坂路を整備（荒川緑地運動広場4の下流） |
| | | | | | WS① | ・坂路が少なく拡張してほしい |
| | | | | | WS① | ・アクセスが悪い〔・もう1つ明確な坂路ががあるとよい、坂路の入口に標識をつくる、新しく坂路を作る際はスムーズに出入りできるように〕 |
| | | | | | WS② | ・車両の出入りを荒川大橋からに。荒川大橋付近に駐車場。 |
| | | | | | WS② | ・荒川大橋から河川敷へ車を導入。いいアイデア！ |
| | | | | | WS② | ・荒川大橋から左折で入る坂路。大通りなので住宅街を通らない |
| | | | | | WS② | ・土手を超える道 中央 下流 上流 を整備したい |
| | | | | | WS② | ▲南大通りの混雑。大麻生の方から車を入れられないか？ |
| | | | | | WS② | ▲車で来る人が多いのでは。駐車場は河川敷。土手坂車道の充実 |
| | | | | | WS② | ・大麻生公園の方からゴルフ場と川の間の道を整備してそこから駐車場へ行かせる |
| | | | | | WS② | ・駐車場への道が長ければ長いほど渋滞しないので緑地の中を走らせてほしい |
| | | | | | WS③ | ・坂路の位置を再考してほしい。渋滞しない方法を考えてほしい。 |
| | | | | | WS③ | ・河川上流　埼玉自動車学校側から出入りできるようにする！ |

# 表4.1 論点４ 活動の展開に関する意見まとめ（スポーツ健康文化交流ゾーン）

計画書に載せる情報

※完成形堤防での整備を想定

| 役割 | 取組内容（案） | 場所 | 必要な施策<br>（凡例）赤青：ハード施策　ピンク：ソフト施策<br>黒：今後の課題、留意点など | かわまちづくり計画に記載する項目 | 意見 | 意見概要<br>（凡例）■：関係者ヒアリング・協議会　■：ワークショップ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3-1. 荒川の自然・風景を楽しみながら気軽に健康づくりやスポーツを楽しむ空間（散歩、ランニング、サイクリング、地域スポーツ）<br><br>3-2. スポーツ観戦やイベント開催による地域交流・賑わいの空間<br><br>3-3. 市内外の多様な人との出会いと交流を育む憩いの空間 | (4)高水敷の利用を充実する環境整備 | 自由広場<br>グランド等 | ②運用方法の最適化の検討（イベント時の坂路の混雑対策、桜木小学校前坂路の時間制限の解除、交通安全対策（自転車と車両の通行空間分離表示・一方通行）等） | 次年度以降調整 | WS① | ▲利用のための坂道の混雑〔見晴町側の坂路は管理されておらず（常に開放）、混雑している、桜祭りの時、桜木小側の駐車場が有料だからと、見晴側から入る人がいて機能していない、桜木町側の斜路が狭い〕 |
| | | | | | WS② | ・V字型の坂路をＩ字形に変えるなら桜木小前の坂道についても時間の制限を外して欲しい。 |
| | | | | | WS③ | ▲自転車と車両は分離 |
| | | | | | WS③ | ▲車の動線　堤防の傾路は一方通行に〔場所に疑問、大切な部分もっと検討必要〕 |
| | | | | | WS③ | ▲堤防I型→歩行者安全対策〔V型→I型車両スムーズになるため、歩行者安全対策に留意が必要〕 |
| | | | | | WS③ | ・桜木小側の坂道の利用時間の制限を設けているのが気になる |
| | | | | | WS③ | ・万平町の花火の時つかっている坂路を整備してほしい |
| | | | | | WS③ | ・歩行者と車の分離(イベント時)の検討 |
| | | | ③花見利用を考慮した堤防坂路の配置の検討 | 次年度以降調整 | WS② | 坂路で桜花見が中断されてしまう。花見客が車のため横断できない |
| | | | | | WS③ | ▲景観的にどうか？〔メインの桜の部分を通っている〕 |
| | | ⑩ | 4）スポーツ施設・広場等の維持・充実、ドッグランの整備 | ハード施策（案） | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ▲歴史あるラグビー場であり、ラグビー協会からどちらも残してほしいと要望があった。 |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ▲ラグビー場のあり方は、荒川堤防の将来計画を踏まえる必要がある |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・河川敷にドッグランがあると良い |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・ドッグランが欲しい〔・ドッグランは熊谷にはない・犬を放している人がいる・ドッグランと駐車場の併用〕 |
| | | | | | WS③ | ・園芸ファンの為の植物園を整備すると良い。 |
| | | | | | WS③ | ・自由広場の利用はスポーツ以外に植物を植える園芸等の利用に配慮してもらえると良い。 |
| | | | ①ニーズを踏まえたスポーツ施設の充実 | 次年度以降調整 | WS② | ・お年寄もスポーツできる自然を活かした常設のマレットゴルフコースの設置 |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・スケートボード、フットサル、テニスコートの整備 |
| | | | | | 協① | ・参考事例　千代田地区のようなスケートボードパークの整備は可能か？ |
| | | | ②子供の遊び場機能の充実<br>・河川敷地内で設置可能な公園遊具の検討（洪水時に撤去可能な遊具等）<br>・安全性に留意した親水公園の検討 | 次年度以降調整 | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・小さな子供が遊べる遊具があると良い |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・まち中の大きな公園として、子供イベント広場のような空間があると良い（ニーズがある） |
| | | | | | WS① | ・多世代が交流できる空間の創出（公園等） |
| | | | | | WS① | ・ピクニック→トイレ・手洗い[ピクニックができる施設、場所としてほしい] |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・子供が安心して使えるしっかりとしたトイレがあると良い。 |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・ベビーカー等で徒歩で移動する主婦層が利用する広場を駅から近い配置にすると良い |
| | | | | | WS① | ・公園遊具の充実〔・小学生の遊ぶ場所、遊具がない（荒川公園）〕 |
| | | | | | WS① | ・河川敷内については遊具などのセットを置くのか。 |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・夏場水辺で親子連れが自然と遊べる空間ができると良い（小さな川、噴水、プール等の水遊びができる公園） |
| | | | | | WS① | ・子育て世代が遊べる広場（特に公園）[子供がふれあえる親水スペースを整備してほしい、子育てしている世帯を考慮し、子供と触れ合える親水公園のようなスペースがあると良い。　今の荒川は川の流れが速く遊べない。] |
| | | | ③多様な利用に配慮した空間のつかい方の検討（スポーツ利用等の既存の利用との共存、ドッグラン利用とその他利用の共存に留意） | 次年度以降調整 | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・スポーツ以外を含め、イベント需要を把握し、必要な設備を考慮する必要がある。 |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・子どもの遊ぶ空間とスポーツをする空間を分けると良い。直射日光対策（屋根）があると良い |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・ラグビー場（有料）は、ラグビー場としての価値を保つ観点から一般利用は難しい。 |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・無料の自由広場については可能性として考えられる。 |
| | | | | | WS① | ・河川敷のグラウンドは利用スポーツ団体のヒアリングが必要〔・現状土手沿いに駐車しており、ボールがぶつかったときにどうするか〕 |
| | | | | | WS① | ▲グランド利用者が使いにくくならないように |
| | | | | | WS② | ▲「あそびのひろば」のためにサッカーとかの今の利用者をしめださないで |
| | | | | | WS② | ・河川敷のエリアは限られているので、多目的に使える場所を増やす。「ソフトボールはソフトボールのみ」とか。 |
| | | | | | WS③ | ▲ドッグランこの場所でいいのか　散策路と離す |
| | | | | | WS③ | ▲犬がうるさいかも |
| | | | ④新たな魅力づくり<br>・桜の季節以外の花の植栽、若者たちのデートスポット・イベントやスポーツ以外の魅力<br>・新市民体育館と連携した民間サービスの誘致（キッチンカー、カフェ）による休憩機能の充実 | 次年度以降調整 | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・桜の季節以外に咲く花を植えたらどうか |
| | | | | | WS① | ・若者たちのデートスポットになるような魅力的な場所へ期待[高水敷をデートに利用できるスポットにしてほしい] |
| | | | | | 協① | ・桜祭り、花火以外に河川敷に来る機会がないのでイベントやスポーツ以外に訪れたくなる事があると人が増えると思います。 |
| | | | | 次年度以降調整 | WS① | ・スポーツ活動の送迎、見学する保護者の憩いの場　[大会利用者、保護者の休憩場所（キッチンカー、カフェ）] |
| | | | | | WS③ | ・キッチンカー<br>常設の「カフェ」「レストラン」は通常人通りが少ないので無理だが、「花見」「花火」など「イベント」時だけ土手の南下道路に「キッチンカー」を並べたい |
| | | | | | WS③ | ・キッチンカーの駐車位置 |
| | | | | | WS③ | ・街中の飲食店の臨時出店(キッチンカー) |

# 表4.1 論点４ 活動の展開に関する意見まとめ（スポーツ健康文化交流ゾーン）

計画書に載せる情報

※完成形堤防での整備を想定

| 役割 | 取組内容（案） | 場所 | 必要な施策<br>（凡例）赤青：ハード施策　ピンク：ソフト施策<br>黒：今後の課題、留意点など | かわまちづくり計画に記載する項目 | 意見 | 意見概要<br>（凡例）■：関係者ヒアリング・協議会　■：ワークショップ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3-1. 荒川の自然・風景を楽しながら気軽に健康づくりやスポーツを楽しむ空間（散歩、ランニング、サイクリング、地域スポーツ）<br><br>3-2. スポーツ観戦やイベント開催による地域交流・賑わいの空間<br><br>3-3. 市内外の多様な人との出会いと交流を育む憩いの空間 | (5)地域交流・健康づくり、スポーツイベントの開催 | 自由広場<br>グランド等 | E）地域交流・健康づくり、スポーツイベント活動の充実<br><br>①多様なイベント利用の充実（実施体制、実施メニューの具体化） | 次年度以降調整 | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・自転車関連イベントの誘致による集客 |
| | | | | | WS① | ・犬のアジリティ大会 |
| | | | | | WS① | ・マルシェ[〔6月ごろに仲間内でマルシェをやりたいと話していた。イベントが開催しやすい計画としてほしい〕 |
| | | | | | WS① | ・文化的な（コンサート利用）利用も配慮されたい。（機材の管理も含めて） |
| | | | | | WS① | ・ロックフェスをしてほしい。〔高水敷でのイベント（ロックフェス）を実施することで、にぎわいを創出、騒音に配慮し右岸での実施〕 |
| | | | | | WS② | ・スポーツでは障害者用の種目をとりいれる |
| | | | | | WS② | ・基本イイネです。南岸ではエアプレーンが行われていたが今は？今度はドローンでも。 |
| | | | | | WS② | ・地元のスポーツ選手を呼んだスポーツ教室（ラグビー、サッカー、野球 etc.） |
| | | | | | WS② | ・イモ煮会でもいいですか？（山形風） |
| | | | | | WS③ | ・夜空(星空)体験イベント |
| | | | | | WS③ | ・地域交流、優秀者表彰　新たに７種(８種)競技の開催(サッカー・テニス・ゴルフ…) |
| | | | | | WS③ | ・体育館との連携〔体育館イベントと川のイベントの連携、スポーツ協会との連携〕 |
| | | | | | WS③ | ・川を活かした活動（ウォーキング、マラソンetc）を増やして欲しい |
| | | | | | WS③ | ・地域交流イベントマラソン、ピクニック、ウォーキング |
| | | | | | WS③ | ・この場所を使った運動をラクロス部など高校生がしている |
| | | | | | WS③ | ・イベント系企画を　キッチンカーも来るもの |
| | | | | | WS③ | ・単発イベントより日常使いを |
| | | | | | WS③ | ・うまいもん市 |
| | | | | | WS③ | ・かけ合わせ　食のイベント×ピクニック |
| | | | ②イベント開催時のルールの検討（火の利用） | 次年度以降調整 | WS② | ・期間（夏休み）限定でもいいので花火ができるといいと思います。 |
| | | | ③イベント開催の支援の仕組み・地域連携の検討 | 次年度以降調整 | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ▲労力がかかる部分を支援してもらえる仕組みが必要 |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・イベント企画は、既存の地域団体の活動と連携すると良い |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ▲市民体育館＋荒川公園の場合全体を見渡せるためイベント管理がしやすいが、荒川緑地は堤防があり見渡せないことからイベント管理がしづらい。 |
| | | | | | WS② | ・河川敷の利用に市民団体も参加していく |
| | | | | | WS② | ▲いろいろなソフトサービスの運営をどの様に行うのか懸念 |
| | | | | | WS② | ・「ボランティア」と「市」と一緒に管理していくシステムを考えたい |
| | | | | | WS③ | ・手間をかけないイベント企画を |
| | | | ②イベント開催時のルールの検討（騒音、ゴミ、火の利用等の周辺の住環境保全と賑わい創出の両立、夏場の暑さ対策）<br><br>④イベント時の車渋滞対策、歩行者等の動線計画<br><br>⑤多様な利用に配慮したイベントの充実（インクルーシブメニュー、バリアフリー教育活動との連携）<br><br>⑥イベント実施の情報発信の工夫 | 次年度以降調整 | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ▲イベント時の音響による住環境への影響への懸念 |
| | | | | | WS①③ | ・まちとの一体的な整備とのことですが周辺の住環境には十分な配慮をして欲しいです |
| | | | | | WS① | ・周辺を保ちながらモラル・ルールづくり |
| | | | | | WS① | ▲駅から土手は住宅街であり、静かな環境であるので、賑わう事による悪化を不安に思う。 |
| | | | | | WS② | ▲体育館、公園、河川等のイベント時に近隣住民宅へ通行許可証を発行する。住民サービスを向上させる。 |
| | | | | | WS② | ▲体育館、かわまちづくり計画は色々あるが基本的に車、交通アクセスが悪すぎるのが心配。混み合うと住民は迷惑です。もっと住民の意見を細かく聞くべき。商業地域ならこまかく住宅地であることを考えてほしい。 |
| | | | | | WS③ | ▲新しい体育館で「興行」を行える「アリーナ」にすると交通量が増えて今でも渋滞多発地なのに今以上に渋滞すると困る |
| | | | | | WS③ | ・車にかわるシェアサイクル(賃貸し自転車)を活用する |
| | | | | | WS③ | ・入口、出口の案内〔坂路の利用も渋滞の要因、一方通行化すると解消するかも〕 |
| | | | | | WS③ | ・市のイベント(うちわまつり)等の情報共有が必要である。 |
| | | | | | WS③ | ・毎日できることをPRを |
| | | | | | WS③ | ・〇〇の日　ピクニックの日　名前をつけてPR、〇〇月間 |
| | | | | | WS③ | ・事業を始めるならゴミが出る。清掃活動はどうするかの検討は優先する必要あり |
| | | | | | WS③ | ・警備員を配置して交通整理をする |
| | | | ⑦河川敷地内の市民参加型の維持管理体制の検討（清掃、除草、防犯活動等） | 次年度以降調整 | WS② | ・河川内トイレをきれいに |
| | | | | | WS② | ▲土堤の草刈りで道路幅は確保できる |
| | | | | | WS② | ・このエリアの（河川敷）草刈り回数を増やす |
| | | | | | WS③ | ・清掃利用　ゴミを引き受けてくれる有償サポーターを育成する |
| | | | | | WS③ | ・草刈り |
| | (6)官民連携・市民協働による公園機能の充実と維持管理体制の構築 | いきいき広場、自由広場等 | 1）緑陰の維持・充実（いきいき広場） | 次年度以降調整 | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・河川敷地内の高木の木陰を活かした涼める場所を作ったらどうか。 |
| | | | | | WS① | ・大木があり日影が多いので整備（いきいき広場）〔・整備したらもっと使える〕 |
| | | | | いきもの広場にハード施策は計画していない | WS① | ・開発した時ハクビシンやタヌキが住宅街に来ないか　[・ハクビシンやたぬきが町の中に入ってくるので、　木を切らずに生息場所を残してほしい] |

# 表4.1 論点４ 活動の展開に関する意見まとめ（スポーツ健康文化交流ゾーン）

計画書に載せる情報

※完成形堤防での整備を想定

| 役割 | 取組内容（案） | 場所 | 必要な施策<br>（凡例）赤青：ハード施策　ピンク：ソフト施策<br>黒：今後の課題、留意点など | かわまちづくり計画に記載する項目 | 意見 | 意見概要<br>（凡例）■：関係者ヒアリング・協議会　■：ワークショップ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3-1.荒川の自然・風景を楽しながら気軽に健康づくりやスポーツを楽しむ空間（散歩、ランニング、サイクリング、地域スポーツ）<br>3-2.スポーツ観戦やイベント開催による地域交流・賑わいの空間<br>3-3.市内外の多様な人との出会いと交流を育む憩いの空間 | (6)官民連携・市民協働による公園機能の充実と維持管理体制の構築 | いきいき広場、自由広場等 | c)公園機能を充実する民間事業者の占用の誘致（アウトドア用品・運動遊具貸し出し、バーベキュー場の運営等） | ソフト施策 | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・有料バーベキュー場ができると市民に喜ばれると思う。 |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・手軽なアウトドアが楽しめる施設があると良い |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・バーベキューのニーズは非常に大きく、問い合わせも多い。 |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・近隣の方が納得できるルールに準じたバーベキュー利用ができると良い。 |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・バーベキュー場や花火ができる場所があると良い。しかし、制限が厳しいと利用しずらいため、エリアとして利用可能範囲を区画すると良いと思う。 |
| | | | | | WS① | ・バーベキュー場を作ってほしい〔市街からも人が集まる様な整備（堤内に管理所）〕〔・嵐山のバーベキュー場は、管理者の管理のもと運営されている。トイレもある。〕〔・バーベキュー場にキャンプ場も併設されていると、人が集まるのではないか。〕<br>〔・バーベキューの洗い物は土手の外でやるなど、管理者の指示のもと、川を汚さないように、手く運営されている。〕 |
| | | | | | WS② | ・家族や仲間とふれあえるバーベキュー場の開設 |
| | | | | | WS② | ・ピクニックやバーベキュー等、道具のレンタルがあればいいと思います。 |
| | | | | | WS② | ・ワンドで魚のつかみどりができたり、近くにバーベキューできる場が欲しい |
| | | | | | WS③ | ・バーベキュー、ピクニック、ハイキング(野鳥の森まで)水遊び |
| | | | | | WS③ | ・バーベキューを指定管理者に |
| | | | ①イベント施設配置のルールの検討（貸出サービス・保管含む） | 次年度以降調整 | WS② | ▲「ピクニックひろば」にハンモックや遊び道具を色々置かないで。自分のしたいことは自分で！ |
| | | | ②民間事業者による占用・有料サービス提供・管理体制の検討<br>③バーベキュー利用のルールづくり（騒音、ゴミ、火の利用等の周辺の住環境保全と賑わい創出の両立、環境配慮に留意） | 次年度以降調整 | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ▲バーベキューを可能とする場合には施設管理者及び消防関係者によるルール決めが必要である。 |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ▲バーベキューを許可するのであれば、騒音やゴミのポイ捨てが懸念されるため、BBQのルール決めを行い、行政で管理する必要がある。 |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ▲バーベキュー場の設置はゴミの問題が懸念される。過去にコアジサシの巣が破壊されることもあった。 |
| | | | | | 協② | ・スポーツ健康文化交流ゾーンでは、スポーツが整備内容としてあがっているが、学校でテント（キャンプ）泊を実施している。BBQも整備内容に上がっているとのことなので、アウトドア系の民間サービスを誘致すると良いのではないか |
| | | | | | WS② | ・バーベキューエリア（有料） |
| | | | | | WS② | ・バーベキューは特に必要です。車は有料で。 |
| | | | | | WS② | ・バーベキューの施設ができたら後片付けをきちんと出来るように有料で。 |
| | | | | | WS② | ・河川敷に正規有料制のBBQエリアを設置（例）川崎市・東京北区 |
| | | | | | WS③ | ・自己管理で(自由に)バーベキュー |
| | （7）「駅」と「かわ」と「まち」の移動を安全、快適、楽しいアクセス環境の整備 | 堤内地（熊谷駅周辺） | 1)周辺まちづくり計画と連携した歩行者等、自転車、自動車の動線計画<br>2)自動車交通量の増加や駐車需要の増加に対応した周辺道路の交通環境の整備（道路・駐車場）<br>3)熊谷駅南口から新市民体育館前を通り、荒川にアクセスする歩行者動線の整備（人中心のウォーカブルな空間整備、シェアモビリティ、楽しむ移動）<br>①自動車、自転車、歩行者の動線計画の検討 | 次年度以降調整 | 協① | ・車の流れ、イベント開催時の渋滞対策 |
| | | | | | WS① | ▲車の往来で交通事故が心配 ［活用　車と人の動線を考えた整備］ |
| | | | | | WS② | ・特に体育館のイベント時、桜祭り、人の安全確保。遠くの坂路から体育館まで河川敷で車を走らせる場合は特に |
| | | | | | WS② | ・河川敷、体育館の利用者増加が見込まれるので車と人のアクセスを良くする必要がある |
| | | | | | WS① | ・周辺とのアクセスを確保して欲しい[南からも北からも動線が確保されていないため、人が集まりづらい] |
| | | | | | WS② | ・体育館のイベント時、桜祭りのイベント時、通常時と人と車の動き、流れが違うと思うのでそういった状況に応じた計画を考えていただきたいと思います |
| | | | | | WS③ | ・車と人の分離ができていない |
| | | | ②荒川公園から河川敷までの連続した賑わい創出の検討、人中心でウォーカブルな交通環境の充実 | 次年度以降調整 | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・荒川公園から河川敷まで連続した賑わいを創りたい |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・駅からかわまちまでの歩行者動線が重要(該当箇所：c) |
| | | | | | 協① | ・人の流れ。駅から河川敷地までのルート検討。 |
| | | | | | WS① | ・熊谷駅南口から体育館荒川公園と共ににぎわい創出を考えかわまちに対して、歩道整備をしてほしい（再掲） |
| | | | | | WS② | ▲歩行者のみの広いメインストリートを作る。駅→メイン会場 |
| | | | | | WS② | ・駅からの車のアプローチはNG。人間のみ。車を遠くから導いていく案ですすめたい |
| | | | | | WS② | ▲ムラサキ（熊谷駅からのアクセス路）は歩行者のみ。車は駅からはなれたところから進入。 |
| | | | | | WS② | ▲車の坂路は駅から遠く |
| | | | | | WS② | ・熊谷駅南口より歩行者優先 |
| | | | ③駅から堤防までのペデストリアンデッキ整備の検討 | 次年度以降調整 | WS① | ・駅から堤までペデストリアンデッキでつなぐ |
| | | | | | WS② | ▲歩く動線の確保→ペデストリアンデッキ |
| | | | | | WS② | ▲駅からのアプローチはペデストリアンデッキで入れるのか？ |
| | | | | | WS② | ・動線、熊谷駅南口駐車場（秩鉄所有地）に高層階建築物を建て大宮駅西口のように新体育館までをペデストリアンデッキで結ぶ導線 |
| | | | | | WS② | ・交通手段としてのシェアサイクルの活用はどうか？ |

# 表4.1 論点４ 活動の展開に関する意見まとめ（スポーツ健康文化交流ゾーン）

計画書に載せる情報

※完成形堤防での整備を想定

| 役割 | 取組内容（案） | 場所 | 必要な施策<br>（凡例）赤青：ハード施策　ピンク：ソフト施策<br>黒：今後の課題、留意点など | かわまちづくり計画に記載する項目 | 意見 | 意見概要<br>（凡例）■：関係者ヒアリング・協議会　■：ワークショップ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3-1.荒川の自然・風景を楽しながら気軽に健康づくりやスポーツを楽しむ空間（散歩、ランニング、サイクリング、地域スポーツ）<br>3-2.スポーツ観戦やイベント開催による地域交流・賑わいの空間<br>3-3.市内外の多様な人との出会いと交流を育む憩いの空間 | （7）「駅」と「かわ」と「まち」の移動を安全、快適、楽しむアクセス環境の整備 | 堤内地（熊谷駅周辺） | ④周辺まちづくり計画と一体的な計画検討（駅南口エリアまちづくり、荒川公園周辺再整備計画、かわまちづくり） | 次年度以降調整 | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・かわまち、南口エリア、北口エリアの一体化（歩行者動線）する視点が重要(該当箇所：d) |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・熊谷駅南口エリアのまちづくりとの連携が必要（荒川公園、新体育館、図書館、文化会館等）（該当箇所：c） |
| | | | | | 協① | ・荒川公園周辺再整備計画との連携の具体策がほしい。 |
| | | | | | 協① | ・市民体育館周辺整備との関わり方連携等。 |
| | | | | | 協① | ・南口の開発、体育館の建設と一体となってまちづくりを進めることで利便性が増す。連携が必要。 |
| | | | | | WS① | ・駅⇔体育館⇔かわまち　この構想（一体として）を期待したい（再掲） |
| | | | | | WS① | ・エリア明確化（荒川公園南口整備との区分）〔3つの計画の横の連携〕（再掲） |
| | | | | | WS① | ・他プロジェクトとの連携によるまちづくり体系、作戦　［・さいたま新都心の様に駅前、再開発と合わせた整備（他のプロジェクト）を参考にした整備を。］ |
| | | | ⑤荒川公園再整備計画と連携した熊谷駅南口から新市民体育館前の自動車・歩行者アクセス路の検討 | 次年度以降調整 | WS② | ・A案 大きな駐車場が確保できる |
| | | | | | WS② | ・A案+大型バス入口 |
| | | | | | WS② | ・A案がいいと思う（合理的） |
| | | | | | WS② | ・A案　駐車場が他の案よりも大きくて体育館利用車に便利だと思った。公園の範囲がせばまるのは少し残念 |
| | | | | | WS② | ▲A案　新体育館のために公園をつぶすのは反対 |
| | | | | | WS② | ▲B案　道をなくすのは不便 |
| | | | | | WS② | ・C案　河川敷まで通す。今のままで。 |
| | | | | | WS② | ・C案 駅より専用歩道橋がほしいです |
| | | | | | WS② | ・A案B案あり得ないC案も賛成ではないが道を考えればC案の道路計画が一番かと思う |
| | | | | | WS② | ▲C案　荒川公園に一部かかるのは反対。道の動線は良いと思う |
| | | | | | WS② | ▲A案 B案 C案 公園を小さくして箱物を作るのは自然破壊では？　道をつぶさないで |
| | | | | | WS② | ・車と人の動線と分離する意味で3案ともの坂路は危険。花見客が土手の上で横断しなくてはいけない |
| | | | | | WS②③ | ▲体育館、公園、河川等のイベント時に近隣住民宅へ通行許可証を発行する。住民サービスを向上させる（再掲）。 |
| | | | | | WS② | ・大型車両の入口（荒川緑地運動広場４付近） |
| | | | | | WS② | ▲公園と木々を守って |
| | | | | | WS② | ▲渋滞の元凶（市民体育館前の道路） |
| | | | | | WS② | ▲公園内Pの入口は木が切られてしまう。住宅街で危険 |
| | | 堤内地（対岸エリア） | ⑥対岸エリアへのアプローチは、将来エリアを対岸に拡大する際に検討 | 次年度以降調整調整 | WS① | ・村岡緑地橋かけて往来できる様　散歩コースとして |
| | | | | | WS② | ・歩きで対岸に渡れる橋があると良い |
| | | | | | WS② | ・かつては（花火大会時）小舟で南岸まで渡った。小舟を並べて歩道にしてはどうか？ |

## 表4.2　論点 4 活動の展開に関する意見まとめ（自然環境保全・環境学習ゾーン、水辺の憩いゾーン、歴史文化体験ゾーン）

計画書に載せる情報

| 役割 | 取組内容(案) | 場所 | 必要な施策<br>（凡例）赤青：ハード施策　ピンク：ソフト施策<br>黒：今後の課題、留意点など | かわまちづくり計画に記載する項目 | 意見 | 意見概要<br>（意見凡例）■：関係者ヒアリング・協議会　■：ワークショップ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1.身近な自然の保全・生物多様性を高める空間 | (1)荒川中流域の自然環境の特性を踏まえた、生物多様性を高める空間整備 | ⑭<br>水辺・低水護岸 | 1)多自然護岸＋捨て石設置（生き物の生育環境の充実）<br>・多自然護岸（覆土）、捨て石設置により、土砂が自然堆積し、在来種による水際環境（エコトーン）の形成を促し、河川の生物の生息・生育・繁殖の場の充実を図る<br>①河川敷エコ利用ゾーン<br>（自然環境20%維持）に留意する | 次年度以降調整 | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ▲当計画箇所は「河川敷エコ利用ゾーン」であり、自然環境が20%維持する計画となっていた。 |
| | | | ②希少種の有無に関わらず、開発に伴う生物の生息空間への影響に留意する | 次年度以降調整 | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ▲希少種の有無に関わらず、生物が生息できる空間を削ることに対し慎重に検討してほしい。 |
| | | | ③堤防整備における緑地に対する在来野草の保全措置の検討 | 次年度以降調整 | 協① | ・方針1-3自然環境、風景の具体策について荒川緑地の範囲内において「かわまちづくり事業」の一環として自然再生整備が望ましいエリアがあります。 |
| | | | | | 協① | ・荒川緑地の下流側の坂路周辺の自然再生整備が望ましい。 |
| | | | | | 協② | ・荒川緑地再整備駐車場までとなっているが、駐車場下流のエリアについては、空地となっているので、そこをターゲットとして、自然創出とすると良いのではないか。 |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ▲堤防拡幅時には既設堤の在来野草を盛土表面に移植する等、環境に配慮が必要 |
| | | | ④自然環境の保全に留意する（水際の樹木の保全、礫河原の保全） | 次年度以降調整 | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ▲面的な整備等をするにあたっては、自然環境保全団体の意見を踏まえ、自然環境保全に配慮する必要 |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ▲水際の樹木の保全が必要（上下流の環境の連続性から重要な位置づけであり、軽視しないでほしい）。 |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ▲礫河原の保全が重要(「明戸サイホン～久下橋」はコアジサシの生息域として最も適した場所であり、礫河原を守ってほしいという要望を30年以上前に発信している。) |
| 2-1.地域の自然環境学習を充実する空間<br><br>2-2.将来の環境を守り育てる担い手づくり | (1)自然環境の保全に配慮し、子供たちが安心して自然と触れ合える水辺空間の整備<br><br>(2)自然学習イベントの開催支援<br><br>(3)地域の環境保全活動の開催支援 | ⑮<br>水辺、低水護岸 | 1）散策路（舗装無し）＋階段（低水護岸）の整備<br>（子ども等の水辺利用の安全確保に必要最小限の整備）<br>①子どもの利用の安全対策<br>H）荒川及び河川敷地の豊かな自然環境の保全、創出を目指す環境学習活動の充実（学校連携、市民参加） | ハード施策（案） | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・学童の自然学習・体験の場の保全 |
| | | | | | 協① | ・自然環境を学ぶという点において手軽に安全に学べるポイントが少ないので整備が必要と考えます。 |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・暑い夏場に子供が川で水遊びできる環境、魚を捕まえる等の自然との触れ合いが出来る環境を整備して欲しい。 |
| | | | | | WS② | ・子ども達が自然とふれあえるフレンドパーク的な広場 |
| | | | | | WS③ | ・子ども等の水辺利用が河川敷から見えるように |
| | | | | | WS③ | ・子どもたちが不安なく遊べるように整備してほしい |
| | | | | | WS③ | ・ちょっとした観光スポットとしてくる理由ができる |
| | | | | ソフト施策（案） | WS① | ・ダッシュ　河川　漁取り |
| | | | | | 協② | ・自然環境学習ゾーンについて、水辺の生き物調査など、小学校での学習を深められる場、どんな学習ができるか広報できる場となると良い。 |
| | | | | | WS③ | ・水辺の生きもの観察 |
| | | | | | WS③ | ・修学旅行で環境学習ができる場に |
| | | | ①自然学習ｲﾍﾞﾝﾄの充実（実施体制、実施メニューの具体化）※学校連携、埼玉県立博物館との連携など | 次年度以降調整 | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・河原の石に関する自然学習で埼玉県立博物館との連携がとれるのではないか。 |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・荒川の水辺の自然を活かした学校連携の可能性（国の水生生物調査、水辺の楽校） |
| | | | ②エリア内の環境に配慮した維持管理のルールづくり（除草剤等） | 次年度以降調整 | WS② | ▲「環境学習」のゾーンはコイの繁殖地でもあるので自然破壊しないよう注意して<br>▲「環境学習」のために自然破壊しないで。（コイの繁殖他） |
| | | | | | WS② | ▲強い除草剤を使わないで。木まで枯れてしまう |
| | | その他 | ③熊谷市ムサシトミヨ保護センターで実施する自然学習ｲﾍﾞﾝﾄとの連携 | 次年度以降調整 | WS② | ・ムサシトミヨの生息地を大切に |
| | | | | | WS③ | ・ムサシトミヨの放流 |

## 表4.2　論点 4 活動の展開に関する意見まとめ（自然環境保全・環境学習ゾーン、水辺の憩いゾーン、歴史文化体験ゾーン）

計画書に載せる情報

| 役割 | 取組内容(案) | 場所 | 必要な施策<br>（凡例）赤青：ハード施策　ピンク：ソフト施策<br>黒：今後の課題、留意点など | かわまちづくり計画に記載する項目 | 意見 | 意見概要<br>（意見凡例）■：関係者ヒアリング・協議会　■：ワークショップ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1. 地域防災力を高め、水辺の安全利用を周知する地域活動を支援する空間 | (1)地域の防災活動や川の安全な利用の普及活動を行うための環境整備<br>(2)防災活動や川の安全な利用の普及活動に係る地域活動の支援 | ⑬<br>低水護岸 | 1)親水護岸、水辺に近づく散策路<br>（階段式護岸による水辺へのアプローチの整備）<br>（散策路位置を下げ、水辺に近づける） | ハード施策（案） | － | － |
| | | | | | WS③ | ▲親水護岸ではなく水に近づけるようにして欲しい〔散策路自体が水に近づく方がいい〕 |
| | | | ①親水護岸の規模、構造、環境配慮の検討 | 次年度以降調整 | WS③ | ▲そもそも不要〔釣り場はあってもいいが親水護岸は不要〕 |
| | | | G)川の安全な利用の普及活動の充実<br>①川の安全な利用のためのルールや川の危険情報の周知、子どもへの安全教育の充実 | 次年度以降調整 | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・河川の危険性を理解する場として活用できると良い |
| | | | | | WS③ | ・「釣り」小川町の「槻川」の様に釣りをできる所にした。 |
| | | | | | WS③ | ・釣り体験 |
| | | | | | WS③ | ・魚釣りイベント |
| | | | | 次年度以降調整 | 協② | ▲釣りやSUPのメニューは魅力があるが、学校では水難事故の懸念から、子供たちだけで水辺に近づかない様に指導している。どうすれば安全に川で遊べるようになるのか考える必要があるのではないか。 |
| 2-1. 荒川の水辺を眺め・やすらぎや涼を感じられる憩いの空間<br><br>2-2. 安全性や環境配慮に留意したアウトドアや健康づくりを楽しむ空間 | (1)水辺の眺望や夏場の涼を楽しむ水際の環境整備<br><br>(2)水辺のアウトドアの環境整備<br><br>(3)水辺の涼を感じながら楽しむイベント等の開催支援 | ⑫<br>水辺・低水護岸 | 1)水辺の散策路の整備<br>①散策路の安全対策（転落防止）<br>②散策路の快適性の確保（夏場の暑さ対策、歩きやすさや景観に配慮した舗装材の検討）<br>③環境に配慮した親水護岸構造の検討 | ハード施策（案） | WS① | ・川とふれあう遊歩道をこのエリア約100Mの緑地に作る<br>(川が見えない。河川沿いに親水空間がほしい、全区間で作ると危ないので100mだけでも川を感じられる親水空間（遊歩道）ができると良い。) |
| | | | | | WS② | ・子供も老人も安全に清涼感のある散歩が楽しめると良い |
| | | | | | WS② | ・水辺の散策路は欲しいです。水辺利用の工夫（水に入る事ができるのか） |
| | | | | | WS② | ・水辺の散策路は楽しみにしている。 |
| | | | | | WS② | ・水辺の散策路を実現して下さい。 |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・河原沿いを歩ける転落防止にも配慮した遊歩道があると良い |
| | | | | | WS① | ・木かげのある遊歩道・河側の木陰が足りない |
| | | | | | WS② | ・ランニングコースを作ってほしい |
| | | | | | WS③ | ・ちょっとした観光スポットとしてくる理由ができる |
| | | | | 次年度以降調整 | WS② | ▲水辺の散策路は暑くて歩けない。ワンドや川遊びに行くため川沿いは車道＋駐車場が良いのではないか |
| | | | | | WS③ | ・水辺散歩道をチップ舗装にして欲しい |
| | | | | | WS③ | ・水辺の散策路の木陰はどうする？ |
| | | ⑬<br>水辺・低水護岸 | 2)親水護岸および捨て石の設置（川の流れを弱める）<br>・捨て石による治水、親水機能充実の効果<br>捨石を設置することで、分流水路の流速を軽減し護岸への侵食を軽減するとともに、平常時の澪筋を河道中央へ誘導する<br>・捨て石による環境、生物多様性の充実の効果<br>捨石の上流側に土砂が堆積し、在来植生による水際環境（エコトーン）の形成を促し、河川の生物の生息環境の充実を図る<br>①環境に配慮した親水護岸整備の検討<br>②子供の安全な利用、河川の生き物との触れ合い、レジャーができる空間の検討 | ハード施策（案） | WS① | ・親水広場が欲しいです。[遊びの要素がない。河川とふれ合う空間。ウォーキングできる場所があると良い・レジャーできる様な水辺空間がほしい（カヌー等）<br>・子供が遊べる場所がほしい〕 |
| | | | | | WS① | ・子育て世代が遊べる広場（特に公園）[子供がふれあえる親水スペースを整備してほしい、子育てしている世帯を考慮し、子供と触れ合える親水公園のようなスペースがあると良い。　今の荒川は川の流れが速く遊べない。]（再掲） |
| | | | | | WS① | ・川遊び　〔・親水の場所が欲しい〕 |
| | | | | | 協① | ・水辺の魅力の充実。例：釣り・涼 |
| | | | | | WS① | ・飯能河原のような本流から引き込んだ浅瀬で親水ができるか |
| | | | | 次年度以降調整 | WS② | ▲水辺利用の安全性を確保してください |
| | | | | | WS② | ▲水辺の多いゾーンに白鳥が来るので開発しないで。ハクビシン、たぬきもいる |
| | | | | | WS② | ▲「親水公園」は狭いとうまくいかない。「嵐山河原」「飯能河原」みたいに広く自由にしたい。 |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ▲親水施設整備の検討にあたり、荒川の河川特性（水辺の安全性）を踏まえる必要、利用者の十分な安全対策が重要である |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ▲川が護岸に迫っているところは人が近づくのは危険であり、現状をどうするか検討する必要がある。 |
| | | | | | 協② | ▲幼児（保育所）が遊びに来ていたりする。安全に遊べる空間整備が望ましい。 |
| | | | | | 協② | ▲河川の澪筋が護岸に寄っている場所で、水の流れが速く水深が深いことから水辺利用のスペースの確保が難しいことから、どのように安全性を確保しながら空間を確保することが今後の検討課題ではある。 |
| | | | F)川に親しむ水辺のアクティビティイベントの活動の充実<br>①水辺の健康・スポーツイベント利用の充実（体制、実施メニューの具体化）<br>②夏以外の季節も含め、体が不自由な人も含め市民が集まる水辺の魅力の充実<br>③遊歩道の安全対策（転落事故防止）<br>④水辺のアクティビティイベント利用の充実（体制、実施メニュー）<br>C)公園機能を充実する民間事業者の占用の誘致<br>①水辺のアクティビティイベントの運営を担う民間事業者の誘致、占用・有料サービス提供・管理体制のルールづくり | 次年度以降調整 | WS① | ・カヌーカヤック |
| | | | | | WS① | ・手こぎボートが週末だけでも出たらいいな（荒川大橋下流は流れがゆるやかなので） |
| | | | | | WS② | ・ボート賛成。暑い熊谷ならではの荒川を利用できるスポーツを。 |
| | | | | | WS③ | ・川遊び・水遊びを楽しめる水辺 |
| | | | | | WS③ | ・熊谷の地の利を生かしたウォーター(水辺)イベント。暑さ対策。 |
| | | | ②夏以外の季節も含め、体が不自由な人も含め市民が集まる魅力の充実 | 次年度以降調整 | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・夏に涼める水辺空間や、釣りなどを楽しむ場所にする等、夏も冬も（体が不自由な人を含め）市民が集まる場所になると良い |
| | | | | | WS② | ・水辺の憩いゾーン。夏がメインの感じがするので、他の季節も楽しめるような空間だといいと思います。 |
| | | | | | WS③ | ・親子で楽しめる浅いプールがあったらいい。 |

## 表4.2　論点４ 活動の展開に関する意見まとめ（自然環境保全・環境学習ゾーン、水辺の憩いゾーン、歴史文化体験ゾーン）

計画書に載せる情報

| 役割 | 取組内容(案) | 場所 | 必要な施策<br>（凡例）赤青：ハード施策　ピンク：ソフト施策<br>黒：今後の課題、留意点など | かわまちづくり計画に記載する項目 | 意見 | 意見概要<br>（意見凡例）■：関係者ヒアリング・協議会　■：ワークショップ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1.熊谷らしさや人とのつながりを大切にする空間づくりにより、熊谷市への愛着と誇りを育む空間 | (1)計画地周辺の中山道等の歴史文化の見どころを繋ぎ、「かわ」と「まち」を繋ぐ回遊ルートの整備<br><br>(2)SNSを用いた「かわ」と「まち」をつなぐ情報発信<br><br>(3)歴史体験イベントの開催 | 堤防 | I)熊谷桜堤など風景の保全、継承の活動支援<br>①熊谷桜堤の保全、継承活動の充実（実施体制、実施メニューの具体化）<br><br>②かわまちづくりを通じた熊谷桜堤の魅力の発信、持続可能な保全継承のあり方（目標、保全活動計画、担い手育成、資金調達等） | 次年度以降調整 | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・熊谷桜堤は桜百選に指定されており、最新技術を駆使し必ず残してほしい。（再掲） |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・桜並木は熊谷の大切な財産であり、（その保全）に配慮した計画づくりとしてほしい。（再掲） |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ▲堤防天端に施設を設ける等した場合、桜堤の景観が損なわれるため、桜堤に影響するような整備は反対である。（再掲） |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ▲桜並木の保全と堤防拡幅や階段敷護岸の工事の両立を考える必要がある。（再掲） |
| | | | | | WS① | ▲桜並木をこわさないでほしい（再掲） |
| | | | | | WS① | ▲カフェなど作って桜を切らない（再掲） |
| | | | | | WS② | ・桜堤を第一に考えてほしいです。 |
| | | | | | WS② | ・桜堤の保全。全国桜百選として名所になってほしい |
| | | | | | WS② | ・桜の木オーナー制度などでより良い桜並木に。日光で行っている。 |
| | | | | | WS② | ・桜の木管理（老木が増えてきた） |
| | | | | | WS③ | ▲もっとキレイに保全してほしい |
| | | ⑪<br>堤内地（熊谷駅周辺） | 1)旧熊谷提や中山道の歴史を活かした、「かわ」と「まち」を繋ぐ回遊ルート、フットパスの整備（バリアフリー・歴史文化の見どころめぐり）<br>2)情報発信施設（案内看板の整備）<br><br>①熊谷市の荒川ならではの歴史に関する魅力・見どころの発信<br>②周辺まちづくり計画と一体的な計画検討（南口エリア、北口エリア、まちづくり、荒川公園周辺再整備計画、かわまちづくり）（再掲） | 次年度以降調整 | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・荒川公園から河川敷まで連続した賑わいを創りたい（再掲） |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・かわまち、南口エリア、北口エリアの一体化（歩行者動線）する視点が重要（再掲） |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・駅からかわまちまでの歩行者動線が重要（再掲） |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・熊谷駅南口エリアのまちづくりとの連携が必要（荒川公園、新体育館、図書館、文化会館等）（再掲） |
| | | | | | 協① | ・人の流れ。駅から河川敷地までのルート検討。（再掲） |
| | | | | | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・熊谷の荒川ならではの魅力の創出が重要 |
| | | | | | 協① | ・オンリーワン、ナンバーワンとしての魅力づくり |
| | | | | | 協① | ・荒川に水車があったのをはじめて知りました。復活したらたのしそうです。 |
| | | | | | 協① | ・北本市高尾地区のかわまちづくり水辺公園、舟運を模した水路をこどもたちの水あそび場にしている（参考まで）。 |
| | | | | | 協① | ・歴史に関する魅力の発信。動線はどのようになっているか。 |
| | | | | | WS① | ▲熊谷らしさの４点は、理想であり荒川河川には求めるのは困難と感じる |
| | | | | | WS① | ▲整備方針1-1　熊谷らしさ、つながり河川敷内で作れるものに制限がある。 |
| | | | J）歴史資源を活用したまちとの連携の活動充実<br>①歴史資源に関する魅力の発信<br>②歴史や文化を学ぶ歴史散策ルートやイベント利用の充実（実施体制、実施メニューの具体化）<br>③周辺の歴史資源との連携メニューの具体化<br>④まちとの連携、まちへ誘う仕掛けづくり（再掲） | 次年度以降調整 | WS② | ・「桜」や「自然」だけでなく熊谷の歴史をかんじさせて。 |
| | | | | | WS② | ・安藤野雁（あんどうぬかり）の歌碑があるが俳句を吟じながらのウォークもいいかも |
| | | | | | WS③ | ・桜の移植(復元)の物語(歴史)〔万平公園の旧熊谷提との連携〕 |
| | | | | | WS③ | ・南口まちづくり　星川周辺のまちづくりとの連携 |
| | | | | | WS③ | ・市のイベント(うちわまつり)等の情報共有が必要である（再掲）。 |
| | | | | | WS③ | ・歌舞伎文化芸能〔子ども達への歌舞伎文化芸能の継承の場としての活用〕 |
| | | | | | WS③ | ・仮設の芝居小屋を建てて歌舞伎の演目を上演する(①熊谷陣屋②実盛物語) |
| | | | | | WS③ | ・歴史とウォーキングを結びつけるのはどうか(離れててむずかしいかも) |
| | | | | | WS③ | ・伏流水、水おいしい　左富士、酒造との連携 |
| 2.過去の水害の歴史や、治水遺産を学び、災害を自分事化する空間 | (1)治水の歴史を学習・体験するイベントの開催<br>(2)流域治水（上下流の自治体連携）を学習・体験するイベントの開催 | ⑪<br>自由広場等のオープンスペース | 1)情報発信施設（過去の水害の歴史や、治水遺産を解説する案内看板の設置等）<br>K）水災害の歴史、治水遺産の情報発信の充実<br>③周辺の歴史資源との連携メニューの具体化 | 次年度以降調整 | ﾋｱﾘﾝｸﾞ | ・河川の危険性を理解する場として活用できると良い（再掲） |
| | | | | 次年度以降調整 | WS② | ・歴史文化のサブゾーン　万平公園の活用（旧堤敷） |
| | | | | | WS② | ・歴史文化体験ゾーン　万平公園に残る旧熊谷堤を一体にして欲しい |

**表4.3　論点４活動の展開に関する意見まとめ（計画の進め方やニーズ把握に関するご意見）**

| 項目分類 | 意見 | 意見概要 | ご意見への対応 |
|---|---|---|---|
| 計画の進め方に関するご意見 | 協① | ・市内で進めている道の駅や体育館立て替事業の共通イメージはありますか？熊谷市のブランディングは。 | ・かわまちづくり計画エリアと新荒川公園修正再整備事業エリアは、市のマスタープランにおいて、新スポーツ・文化・健康拠点注１に位置付けられています。本拠点の土地利用方針を共通の方針としています。<br>また、目指す熊谷らしさについて、市民アンケート、市民ワークショップ意見を踏まえ設定し、本計画の基本方針（整備方針1-1）に掲げています。 |
| | 協① | ・参考事例はわかりやすい。ここに熊谷の強みとニーズをのせていきたい。 | |
| ニーズ把握に関するご意見 | WS① | ・利用者に今のままで良いか、駐車場や運動広場をどのように変えてほしいかヒアリングしたらどうか | ・令和5年度にヒアリング調査やアンケート調査を実施し、利用している関係団体へのヒアリング、一般利用者のニーズ調査を行い、頂いたご意見を踏まえた内容としています。 |
| | 協① | ・これから熊谷で育っていく子供たちのニーズも収集していくとよいのでは。 | ・令和６年度に実施したかわまちづくり社会実験において、参加頂いた児童からのご意見として、子供たちのニーズを確認しました。次年度以降、近隣の学校関係者と調整の上、子供たちのニーズ把握を行う予定です。 |
| 意見反映について | WS③ | ・次年度以降調整してくれるのか不安　全般 | ・次年度以降調整と記載している事項は、今後の課題、留意点として計画書に記載することで、次年度以降の詳細設計に引き継ぐ予定です。 |

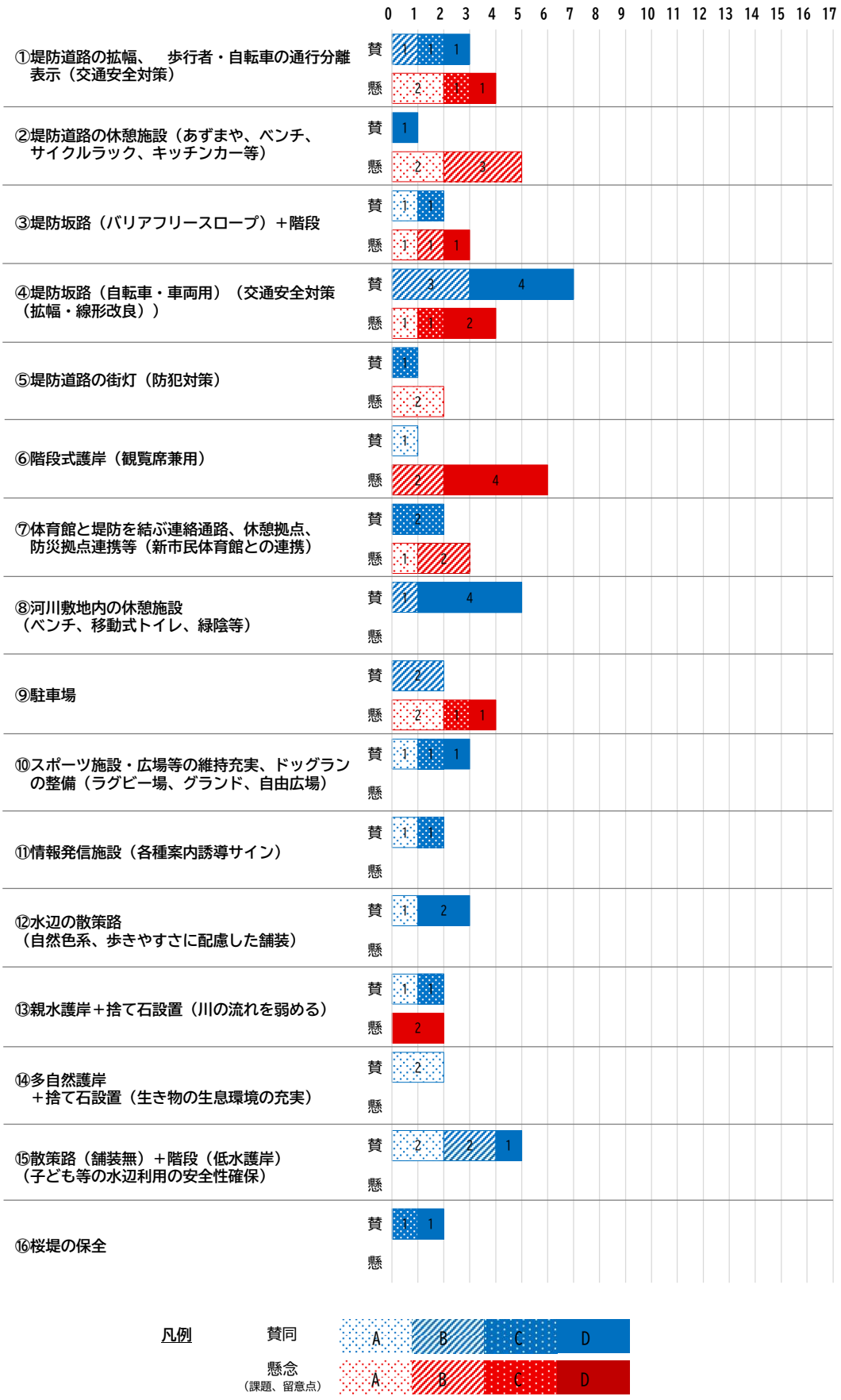
**表4.4　論点４活動の展開に関する意見まとめ（関連部署へ情報共有するご意見）**

| 項目分類 | 意見 | 意見概要 | ご意見への対応 |
|---|---|---|---|
| シェルターに関するご意見 | WS①<br>WS② | ・シェルター　（９か所）<br>・命守ることを優先（核シェルターの整備） | ・貴重な意見として頂戴し、関連する部署に情報を共有します。 |
| 荒川公園周辺再整備事業（新市民体育館整備）に関するご意見 | WS① | 荒川公園の木を切らない | ・荒川公園周辺再整備事業に係る内容です。<br>頂いたご意見は主管する部署に情報を共有します。 |
| | WS① | 体育館の立てかえ、荒川公園の木などがなくなってしまうのは嫌です | |
| | WS① | 慰霊塔をどうするのか？ | |
| | WS② | 荒川河川敷駐車場の利用もあるが限られた土地であるため新市民体育館には併設して立体駐車場を設けるべき（例）高崎アリーナ | |
| | WS② | 体育館の中に駐車場 | |
| | WS② | もし荒川公園の広場をつぶすなら、駅からすぐ近くの所に土の広場（バックネット付）を作ってほしい＋木陰 | |
| | WS② | 浸水（3m未満）の地域なので体育館、公園を3m以上に上げて下を通路にする | |

注１）熊谷市マスタープラン　新スポーツ・文化・健康拠点（荒川公園周辺）

◇都市拠点に近接する強みを生かし、市民のスポーツ・文化活動の支援や、交流人口の拡大を図る拠点です
◇「するスポーツ」、「みるスポーツ」、「ささえるスポーツ」を通じ、地域の誇りを感じる空間です。

# 検討①　かわまちづくり計画（案）



別紙３

# 市民・行政協働のかわまちづくり活動（案）

| ゾーン区分 | ソフト施策（案） | 今後の課題、留意点 | R6年度社会実験実施状況 | 地域意見 協議会 | 地域意見 ヒアリング | 地域意見 市民[注1] | 実施主体（案） | 具体メニュー（一例）（青字は地域意見より。ピンク字は第３回ワークショップ意見より。赤字は地域意見かつ、第３回ワークショップ意見より） | 第３回WSシール投票 重要 | 第３回WSシール投票 重要＋やや重要 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 共通防災 | A)地域の防災活動の充実（防災訓練、防災学習イベント実施） | ① 地域の防災活動の充実（実施体制、実施メニューの具体化） | ● | ○ | ○ | ○ | 市 ＋ 国 地域 学校 ○○ | **■地域防災イベント利用**<br>（R6社会実験結果を踏まえ、内容充実・対象を拡大）<br>・川の防災教室、テント張り体験、炊き出し、豪雨体験 | | | |
| スポーツ健康文化交流ゾーン（堤防） | B）堤防散策の魅力づくりの活動充実（四季を通じた魅力、見どころ） | ① 熊谷らしさの魅力の充実と発信（桜の開花時期（春）以外の季節の魅力）<br>② まちとの連携、まちへ誘う仕掛けづくり | － | ○ | ○ | ○ | 市 ＋ 地域 ○○ 民間 | **■魅力づくり**（散策ルート・見どころマップ、サイン、駅とかわまちエリアに誘う歩行者動線、PR活動、四季を彩る花壇など）<br>**■健康づくり・地域交流イベント利用**（中心市街地との連携、健康マイレージ事業との連携、秩父鉄道サイクルトレインとの連携（荒川上流域との交流））<br>・ウォーキングイベント、ハイキング(野鳥の森まで)、サイクリングイベント | | | |
| | C）公園機能を充実する民間事業者の占用の誘致 | ① 魅力ある休憩拠点運営事業者の誘致、占用・有料サービス提供・管理体制のルールづくり | － | － | ○ | － | 市 ＋ 民間 ○○ | ■休憩サービスを提供する民間事業者の誘致（ウォーキングやサイクリングの休憩拠点・荒川を望むカフェ、姉妹都市ニュージーランドのカフェ） ※新市民体育館連携 | | | |
| | D）交通安全、防犯対策自転車の交通ルール・マナー周知活動や交通安全活動充実 | ① 自転車の交通ルール・マナーの周知活動や交通安全活動の充実<br>② 交通安全活動の実施体制、実施メニューの具体化 | － | ○ | ○ | － | 市 ＋ 国 学校 ○○ | **■交通安全学習イベント利用**<br>・自転車の交通ルール・マナーの周知活動や交通安全教室開催支援 | | | |
| スポーツ健康文化交流ゾーン（高水敷） | E）地域交流・健康づくり、スポーツイベント活動の充実 | ① 多様なイベント利用の充実（実施体制、実施メニューの具体化）<br>② イベント開催時のルールの検討（騒音、ゴミ、火の利用等の周辺の住環境保全と賑わい創出の両立、夏場の暑さ対策）<br>③ イベント開催の支援の仕組み・地域連携の検討<br>④ イベント時の車渋滞対策、歩行者等の動線計画<br>⑤ 多様な利用に配慮したイベントの充実（インクルーシブメニュー、バリアフリー教育活動との連携）<br>⑥ 河川敷地内の市民参加型の維持管理体制の検討（清掃・除草・防犯活動など） | ● | ○ | ○ | ◎ | 市 ＋ 地域 関連団体 民間 ○○ | **■①地域交流イベント利用**<br>（R6社会実験結果を踏まえ、内容充実・対象を拡大）<br>・食：バーベキュー、ピクニック、マルシェ、キッチンカー、熊谷地場野菜の販売、いも煮会、お祭り、食のイベント×ピクニックなどかけ合わせたイベント、ピクニックの日 名前をつけてPR<br>・遊び、憩い：子供向けイベント（体験）、遊び場づくり（鬼ごっこ、宝さがし、かくれんぼ、インクルーシブ遊具、健康遊具（ぶらさがり棒）、芝滑り）、水遊び、水辺の生き物触れ合い、・ 動物園、ドッグラン、犬のアジリティ大会、ドローン、小型飛行機、パラグライダー、パフォーマンス芸人、のりものなど（子どもが好きなもの）こども、幼児が安全に遊べる芝生広場、お話会（※図書館連携）、星空観察会（※プラネタリューム連携）<br>・文化：音楽イベント（※文化センター連携） | ① 7 | ①13 | 選定 |
| | C）公園機能を充実する民間事業者の占用の誘致（アウトドア用品・運動遊具貸し出し、バーベキュー場の運営等） | ① イベント施設配置のルールの検討（貸出サービス・保管含む）<br>② 民間事業者による占用・有料サービス提供・管理体制の検討（バーベキューやドッグラン、音楽イベント、スポーツイベント）バーベキュー利用のルールづくり（騒音、ゴミ、火の利用等の周辺の住環境保全と賑わい創出の両立、環境配慮に留意） | － | ○ | ○ | ◎ | 市 ＋ 民間 ○○ | **■②スポーツ健康づくり利用**（健康マイレージ事業、スマートシティ事業、公共交通との連携）<br>・スポーツ体験イベント、スポーツ教室（ラグビー、サッカー、ドッチボール、アスレチック、野球、ボルダリング、インクルーシブスポーツ、マレットゴルフ、テニス、ゴルフ、マラソン、）（※地元スポーツ選手連携、地域スポーツチーム、自治会クラブ活動、体育館との連携（”体育館”でのイベントと”川”のイベント等1日遊べる様なイベント。））<br>・サウナ、優秀者表彰 | ② 5 | ② 9 | |
| | | | | | | | | **■③体にも地域にも地球にも優しい移動推奨の取組**（需要調整：健康マイレージ事業、スマートシティ事業、シェアサイクル等のモビリティ、公共交通との連携）、入口、出口の案内、臨時の自転車置場 | ③ 9 | ③10 | 選定 |
| | | | | | | | | ■④清掃活動 ・清掃活動 | ④ 4 | ④ 8 | |
| 水辺の憩いゾーン | F）川に親しむ水辺のアクティビティイベント活動の充実 | ① 水辺の健康・スポーツイベント利用の充実（体制、実施メニューの具体化）<br>② 夏以外の季節も含め、体が不自由な人も含め市民が集まる水辺の魅力の充実<br>③ 遊歩道の安全対策（転落事故防止）<br>④ 水辺のアクティビティイベント利用の充実（体制、実施メニュー） | － | ○ | ○ | ◎ | 市 ＋ 地域 関連団体 民間 ○○ | **■⑤地域交流イベント利用（水辺）**<br>・水辺のウォーキング、マラソン、サイクリングイベント<br>・夏の涼を楽しむイベント（礫河原で親水、チェアリングイベントなど）川を活かした活動<br>・川遊び、水遊び、水切り体験、行田へのクルーズ船の運航<br>・熊谷の地の利を生かしたウォーター(水辺)イベント、親子で楽しめる浅いプール、 | ⑤ 5 | ⑤ 9 | |
| | C）公園機能を充実する民間事業者の占用の誘致 | ① 水辺のアクティビティイベントの運営を担う民間事業者の誘致、占用・有料サービス提供・管理体制のルールづくり | － | － | － | － | 市 ＋ 民間 ○○ | **■⑥スポーツ・健康づくり利用（水辺）**<br>・カヌー、カヤック、手漕ぎボート<br>・魚釣り体験 | ⑥ 2 | ⑥ 5 | |
| | G)川の安全な利用の普及活動の充実 | ① 川の安全な利用のためのルールや川の危険リスクの周知、子どもへの安全教育の充実 | ● | ○ | ○ | ○ | 市 ＋ 国 学校 ○○ | **■川の安全体験教室利用**<br>（R6社会実験結果を踏まえ、内容充実・対象を拡大）<br>・川の安全体験教室、川での遊び方、、川での注意事項、川の防災 | | | |
| 自然環境保全環境学習ゾーン | H）荒川及び河川敷地の豊かな自然環境の保全、創出を目指す環境学習活動の充実 | ① 自然学習ｲﾍﾞﾝﾄの充実（実施体制、実施メニューの具体化）<br>※学校連携、埼玉県立博物館との連携など<br>② エリア内の環境に配慮した維持管理のルールづくり（除草剤等）<br>③ 熊谷市ムサシトミヨ保護センターで実施する自然学習ｲﾍﾞﾝﾄとの連携 | ● | ○ | ○ | ◎ | 市 ＋ 国 地域 関連団体 学校 ○○ | **■自然体験・学習利用**<br>（R6社会実験結果を踏まえ、内容充実・対象を拡大）<br>・自然観察（水生生物調査、野鳥の観察会、水質調査）、PR活動<br>・自然観察（草花・昆虫の観察会、畑）<br>・子供の自然と共に遊べる場として利用（魚釣り・川遊び体験）水辺の生きもの観察<br>・ムサシトミヨ保護センターの自然学習との連携、ムサシトミヨの放流<br>⑨修学旅行で環境学習ができる場に<br>**■清掃活動** ・清掃活動、定期ゴミ拾いのイベント、<br>・ゴミを引き受けてくれる有償サポーターを育成する | 2 | 2 | |
| 歴史文化体験ゾーン（堤防） | I）熊谷桜堤など風景の保全と継承の活動の充実 | ① 熊谷桜堤の保全、継承活動の充実（実施体制、実施メニューの具体化）<br>② かわまちづくりを通じた熊谷桜堤の魅力の発信、持続可能な保全継承のあり方（目標、保全活動計画、担い手育成、資金調達等） | － | － | ○ | ◎ | 市 ＋ 地域 関連団体 学校 民間 ○○ | **■桜堤の保全活動**<br>・維持管理活動（観察、施肥、水やり、除草、根の保護柵、害虫駆除・予防、落ち葉清掃、樹名板づくり、草刈り）<br>・桜堤の保全継承の計画づくり<br>・ボランティア養成<br>**■桜堤の魅力のPR活動と資金調達**<br>・桜の木オーナー制度、ふるさと納税型クラウドファンディングなど | | | |
| 歴史文化体験ゾーン（まちとの連携） | J）歴史資源を活用したまちとの連携の活動充実<br>K）水災害の歴史、治水遺産の情報発信の充実 | ① 歴史資源に関する魅力の発信<br>② 歴史や文化を学ぶ歴史散策ルートやイベント利用の充実（実施体制、実施メニューの具体化）<br>③ 周辺の歴史資源との連携メニューの具体化<br>④ まちとの連携、まちへ誘う仕掛けづくり（再掲） | － | ○ | ○ | ○ | 市 ＋ 地域 関連団体 学校 民間 ○○ | **■⑦歴史散策イベント利用**<br>・渡しの歴史（舟渡体験）、治水遺産（万平公園旧熊谷堤）、中山道の歴史<br>・歴史資源周遊ルートづくり、歴史とウォーキングを結びつけるのはどうか<br>・歴史解説ボランティア養成<br>**■⑧かわとまちをつなぐイベント利用**<br>・南口まちづくり、星川との連携、熊谷染め、雪くまなど荒川に係る歴史資源を活かす連携、街中の飲食店の臨時出店(キッチンカー)、伏流水、左富士、酒造、仮設の芝居小屋を建てて歌舞伎の演目を上演する(①熊谷陣屋②実盛物語)、 | ⑦ 1<br>⑧ 1 | ⑦ 1<br>⑧ 6 | |

市民意見：ワークショップ意見、社会実験アンケート（10/6、10/2）、R5市民アンケート（WEB・自治会）（◎：意見が複数あった項目、○：意見があった項目、－：意見のなかった項目）

## 検討②　かわまちづくりでの活動（案）

